

Action Book 2018

2018 年度 事業計画書

盛岡 YMCA の使命

私たち盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども・家族・地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

- 1 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
- 2 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
- 3 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

盛岡 YMCA 2018 年度基本聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

(新約聖書 ローマの信徒への手紙 12 章 15 節)

盛岡 YMCA 2018 年度 全体行動目標

盛岡 YMCA が行う全てのプログラムを通して以下の価値を子ども、家族、地域に伝えていく。

- 1 他者の悲しみを自分のことのように悲しむことができること。
- 2 他者の喜びを自分のことのように喜ぶことができること。
- 3 自分がしてほしいことを他者にもすることができること。

1. 2018年度 事業計画策定にあたって

◆ 基本聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。(新約聖書ローマの信徒への手紙 12章15節)

東日本大震災を契機に盛岡 YMCA は、2012 年からロゴマーク、ホームページ、各種印刷物を刷新し、「君でいいんだよ」のメッセージを合言葉に、①他者の悲しみを自分のことのように悲しむことができること ②他者の喜びを自分のことのように喜ぶことができること ③自分のしてほしいことを他者にもすることができること、以上3つの価値を盛岡 YMCA の行う全てのプログラムを通して発信してきた。以来、基本聖句を変えずに現在に至っている。いわば、私たちは盛岡 YMCA としてのブランディングを6年間推進してきたことになる。

この度、日本の YMCA は、長い準備と協議の期間を経て全国統一のブランディングを行うこととなった。これに伴い、盛岡 YMCA も新しいブランドコンセプトのもと様々な表出を行なっていくこととなるが、目指すものは変わらない価値である。盛岡 YMCA は今後、「互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る」ことをビジョンに活動を行なっていくが、基本聖句はそのビジョンをより実現可能なものにする上でも 2018 年度も引き続きこの聖句を掲げることとする。

◆ 社会の課題の解決に向けて

2017 年度、盛岡 YMCA の活動は団体の維持、継続を主たる目的とするのではなく、組織、財政、ネットワークの増強に努めながら、社会の課題に積極的に取り組んでいく YMCA へとステップアップすることを目的にスタートした。事業面においては、本宮、向中野地区における親が働く学齢期の子どもたちの居場所の確保を目的とした「盛岡 YMCA 盛南センター」(学童保育 ぷらいむ・たいむ盛南校)を新たに開設した。また、子どもたちの基礎的運動能力の向上を図る「体操教室」、シルバー世代とユース世代との交流をはかる「いきいきクラブ」などのパイロットプログラムを開催した。

社会の課題の解決に向けての活動は、ユース委員会、チャリティラン委員会が中心となり、8 月には、思春期の青少年が持つ課題に取り組む、「中高生キャンプ」を実施し、10 月には、障がいのある人も、そうでない人も互いに思いやり、共に幸せに生きて行く社会の実現を目指した「第 1 回盛岡 YMCA インターナショナル・チャリティラン 2017」を総勢 306 名が集い、開催することができた。

また、盛岡 YMCA の活動の大きな力となっているユースボランティアリーダーは、リーダー、スタッフ丸となった昨年度からの組織的な募集活動、普段の活動における真摯な取り組みにより、登録者数は 100 名を超えるマンパワーになっている。

いっぽう全国に目を向けると 2017 年度は日本の YMCA においては、大きな変革の年でもあった。互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創ることをビジョンに掲げ、「みつかる。つながる。よくなっていく。」をブランドスローガンにロゴ、マークを全国的に刷新することが、6 月に開催された日本 YMCA 同盟協議会において承認された。これに伴い、盛岡 YMCA も看板、名刺、封筒、新聞、公用車のマーク、ホームページの刷新を行なった。

こうした、2017 年度の活動を土台にいいよ、2018 年度は、盛岡 YMCA が社会の抱える課題に取り組む団体としての具体的なアクションを展開して行く年とする。

※ **ブランドコンセプト**

ブランドコンセプトは、「日本 YMCA 基本原則」、並びに「盛岡 YMCA の使命」と整合性をはかりつつ、YMCA の社会に対する約束として以下の 3 つの要素で構成される。

Vision ビジョン	YMCA が実現したい世の中の姿	互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。
Value バリュー	YMCA が YMCA に関わる一人一人や地域社会並びに行政等に提供を約束する価値	したい何かがみつき、誰かとつながる。私 がよくなる、かけがえのない場所。 みつかる つながる よくなる
Personality パーソナリティ	YMCA がブランドとして備えている個性、らしさ	心をひらき、分かち合う。 前向きで、まわりを惹きつける 魅力を持つ。

※ **「ポジティブネット」とは**

互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。課題の多い社会の中で、それは生きるためのひとつの選択肢となっていく。日本の YMCA は、グローバルなネットワーク基盤を生かしてポジティブネットを広げ、希望あるより豊かな社会を創る。

※ **ブランドスローガン**

「みつかる。つながる。よくなっていく。」

ブランドコンセプトに込められたエッセンスを魅力的に伝える端的なメッセージ。今後の対外的なコミュニケーションの展開の核として積極的に使用されるもの。

2. 2018年度 盛岡YMCA事業計画（前文）

ブランディングを有効に活用し、盛岡YMCAが社会の課題に取り組む団体であることを地域に発信し、計画的かつ地道で誠実な活動を通して地域からの理解と信頼を得る。

「学童保育を行なっている団体」「キャンプを行なっている団体」「サッカーや水泳教室を行なっている団体」「国際協力募金を行なっている団体」「被災地復興支援活動を行なっている団体」など盛岡YMCAは、市民から様々なイメージで受け止められている。

2018年度は、2017年10月から全国のYMCAで始まった「ブランディング」を積極的に活用し、盛岡並びに近隣地域から、「盛岡YMCA」という社会の課題に取り組む非営利公益団体として受け止められるようにする。具体的には、参加費、会費をいただいて運営する子ども向けの教室というイメージから、事業においては、質の高いサービスを提供していくことはもちろんだが、同時に地域社会の課題に積極的に取り組む団体として市民からの理解を得るためのアクションを開始する。

そして、2018年にスタートしたこの取り組みが数年先には、盛岡YMCAが非営利公益団体として、地域において日本赤十字や、赤い羽根共同募金会、社会福祉協議会、社会福祉事業団などの団体と同レベルの理解を盛岡において得ることを目標とする。これは人口30万の地方都市においては十分に実現可能な挑戦として、内容の伴った具体的な取り組みを行っていく。

そのためには、2017年6月17日第5回日本YMCA同盟協議会で承認された、「**日本YMCA中期計画2020基本方針**」に沿って、**盛岡YMCA2018年度事業計画並びにアクションプラン**を組み立てる。また、盛岡YMCAの活動を大きく6つの領域に分類し、私たちの活動の目的やそれに対する評価に関わる全ての人々、そして地域社会にとってより理解しやすいものにしていく。

3. 2018年度 盛岡YMCA事業計画

1. YOUTH EMPOWERMENT (地域に生きるこどもたち、青少年のために)

未来を創る青少年を育成してきたのがYMCAの原点である。青少年育成の視点からの地域形成を考え、すべての事業、活動で、青少年に「みつかる、つながる、よくなっていく」活動を推進する。「リーダー会の育成」「国内外のワークキャンプ」「リーダー研修の充実と参画」「ピンクシャツデー」「国際、災害ボランティア」など、社会課題を自分の課題と捉え行動する機会を創る。

2. HEALTHY LIVING (地域の人々の健康な生活を育むために)

乳幼児から高齢者まですべての人が健康で豊かな生活を過ごせるよう、それぞれの年代の健康の課題に寄り添っていく。地域の有識者やボランティアと協働し、すべての年代における健康づくりを推進する。

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

障がい、国籍、性別、所得、年齢、職業などの背景を問わず、すべての人、多様性を受け入れ、ポジティブネットのある豊かな地域社会を目指す。すべての人に公平にチャンスのある世界の創造に取り組む人びとを育む。

また、盛岡YMCAの行うすべての事業、活動が地域社会の課題に向き合っていることを明確に打ち出す。

4. MANAGEMENT (盛岡YMCAのマネジメントを強化し、確立する)

盛岡YMCAが展開する運動を支え、強化し、継続的に発展させるため、プログラムを充実させ、その基盤となる、財政、組織基盤を整え、盤石な体制を築く。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としてのYMCA作り)

盛岡YMCAの一時的サービスの利用者が、リーダーとして、ボランティアとして、寄付者として、そして盛岡YMCAの担い手として関わることを通して、盛岡YMCAの使命と価値を体験することを確実に得られるような体制を作る。ポジティブネットのある豊かな社会を作ることへの共感を得る。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

盛岡YMCAとしての広報戦略を立案し、恒常的かつ機動的に全国、世界的組織である長所を生かして、地域社会に発信できる体制と体質を作る。社会に貢献する働きを明確にすることによって、賛同や寄付を得る組織風土を確立する。

4. アクションプラン (全体)

赤字は、日本 YMCA 中期計画 具体的展開に連動

1. YOUTH EMPOWERMENT (地域に生きるこどもたち、青少年のために)

- 1) ユースボランティアリーダーの更なる増強を目指す。
 - ①各学年において 20 名のコアメンバーの定着を目指す。
 - ②リーダー研修、フォロー体制を整える。
- 2) グローバルネットワークを生かし、ユース世代に共に生きる原体験となる機会をさらに提供する。
ユースが自ら社会の課題を見つめ、自己と社会の変革のためにアクションに参加できる道筋を整える。
 - ①9月に山中湖で開催されるユースボランティアリーダーズフォーラムに2名の参加を目指す。
 - ②10月に宮城県で開催される全国リーダー研修会に10名の参加を目指す。
 - ③11に東山荘で開催される日本YMCA大会に5名の参加を目指す。
 - ④日本のYMCAが行うワークキャンプへの積極的参加を促す。
 - ⑤高校生ジュニアボランティアリーダーを育成する。
 - ⑥海外との交流を目指し、台湾とのパートナーシップを検討する。
 - ⑦盛岡YMCA主催のワークキャンプの調査を進める。
- 3) 総合的なユース育成のビジョンを確立し、岩手におけるユースエンパワーメントの第一人者を目指す。
 - ①盛岡市並びに岩手県における青少年育成の取り組みを調査する。
- 4) 地域社会の課題の解決を目指し、プログラムを企画、開発し、推進できるスタッフを養成するために、研修の場を設ける。
 - ①職員・リーダー対象に外部講師を招き、研修会を開催する。
- 5) 日本のYMCAが開催する各種研修への派遣、加盟YMCA間の人事協力・交流を積極的に進める
 - ①他のYMCAに主務者を1名、1ヶ月間研修に送り出す。
 - ②東日本YMCAスタッフ研修会に2名、スタッフを送り出す。

2. HEALTHY LIVING (地域の人々の健康な生活を育むために)

- 1) シルバーを対象としたパイロットプログラムを行う。
 - ①いきいきクラブを年数回開催し評価、反省を加え継続した事業に発展させる。
 - ②シルバーを対象とした運動プログラムの調査を行う。
- 2) ウェルネスの視点にたった健康なライフスタイルを地域に展開していく。
 - ①組織としてウェルネスに対する学びを深める。

- ②ウエルネスの考えをよりわかりやすく伝える工夫をする。
- ③食に対する学びを深める。
- ④行政と連携した新規プログラムの開発に向けて調査をする。

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

- 1) 盛岡 YMCA が行う全事業・活動がブランドコンセプトに基づいた「互いを認め合い、高め合う『ポジティブネット』のある豊かな社会を創る」の実現を目指すものか検証を行い、その評価を磨き高める。
 - ①『ポジティブネット』のイメージを職員、役員、ボランティアの中で出し合う。
 - ②『ポジティブネット』を意識して各センター、事業のアクションプランを作成する。
- 2) 主として青少年が抱える課題について調査を開始し、具体的なアクションを起こす。
 - ①いじめの問題に取り組む。
 - ②貧困による影響を受ける子どもたちの課題に取り組む。
 - ③障がいを持った子どもたちが抱える課題に取り組む。
- 3) 地域が抱える課題に対して調査を開始し、具体的なアクションを起こす。
 - ①盛岡市、滝沢市、紫波町等における放課後児童対策として盛岡 YMCA ができることを調査する。
 - ②放課後等ディサービスについて調査を行う。
 - ③主に学童保育在籍生を対象とした生涯学習プログラムを開始する。
- 4) 東日本大震災被災地復興支援活動を継続して行う。
 - ①宮古で行なっているサッカー教室、野外活動を発展させる。
 - ②YMCA に集う青少年に対して福島が抱える課題について学ぶ機会を提供する。
- 5) 近隣 YMCA との協力、事業の協働を進める。日本 YMCA が行う全国協働事業に協力する。また、地域における学生 YMCA、もりおかワイズメンズクラブとの協働を図る。
 - ①仙台 YMCA が主幹で開催する全国リーダー研修会に協力する。
 - ②日本 YMCA 大会の実行委員にユーススタッフを送り出す。
 - ③もりおかワイズメンズクラブが行う屋台出店に協力する。
- 6) YMCA の持つ、世界的なネットワークを盛岡において有効に発信する。
 - ①国際協力募金を発展させる。
 - ②アジアの YMCA とのパートナーシップの締結の準備を開始する。
 - ③岩手における国際関係の団体とのネットワークを強化する。

4. MANAGEMENT (盛岡 YMCA のマネジメントを強化し、確立する)

- 1) ブランドの基盤となるミッションの再確認と徹底を図る。ミッションがブランドにどう繋がるか、理解を深める。
 - ①職員、役員において日本 YMCA 基本原則について学ぶ機会を設ける。(盛岡 YMCA 大会の開催)
 - ②職員、役員において盛岡 YMCA の使命の意義を理解する。(ハンドブックの作成)
- 2) 盛岡 YMCA の運動を理解し、支える維持会員を増強する。
 - ①維持会員増強タスクチームを設置し、計画的、積極的に増強に努める。
 - ②地域からの高い信頼性を得るため、認定 NPO 法人の取得を目指す。
- 3) より的確な経営判断ができるよう、会計、募集状況等、必要な情報を提供できる体制を整える。
 - ①3 半期ごと財務状況、並びに現状と課題のレポートを作成する。
 - ②上半期(9月)にアクションプランの中間報告を行う。
 - ③マンスリー総主事通信を職員、役員対象に発行する。
- 4) 盛岡 YMCA の行う全ての事業、活動の質並びに内容をより充実したものにし、その実行をより効率的なものにする。
 - ①PDCA サイクルを全ての事業、活動に導入する。
 - ②PDCA サイクルが正しく回り、導入した成果が現れるようにする。
- 5) 新たにマネジメントの項目を追加した「YMCA ガバナンス・マネジメントチェックリスト」を用いて、セルフチェックを実施する。
 - ①セルフチェックリストを元に職員、役員にアンケート実施する。
 - ②セルフチェックリストのアンケートを元にその対策を立案する。
- 6) 就労環境(働く環境)の改善に努め、盛岡 YMCA の事業・活動を推進するスタッフの採用、確保を進める。
 - ①就業規則、並びに諸規定の整備を行う。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としての YMCA 作り)

- 1) プログラム利用者に盛岡 YMCA が目指すことを分かりやすく説明する機会を多くもつ。
 - ①盛岡 YMCA ニュースの内容を充実させるとともに、該当者に確実に配布されるようにする。
 - ②盛岡 YMCA の開催するイベントに積極的に会員の参加を促す。

2) 盛岡 YMCA の行う、それぞれの事業や、センターにおいて、ブランディングとともに、メンバーシップ・バイ・デザインを意識した、働きかけを計画的かつ、積極的に実践して行く。

- ①職員レベルにおいて、メンバーシップ・バイ・デザインについての学びを深める。
- ②メンバーシップ・バイ・デザインタスクチームを設置し、具体的なアクションプランと手引きを作成する。
- ③チャリティーランを通して担い手会員を育てる。
- ④ピンクシャツデーを通して担い手会員を育てる。

3) 理事、常議員を含めた会員組織としてメンバーシップデザインを進める体制を作る。

- ①5年後盛岡 YMCA におけるメンバーシップ・バイ・デザインのゴールをイメージして計画を作成する。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

1) 盛岡 YMCA が行う学童保育、サッカースクール、水泳教室、キャンプ等事業ならびに、盛岡 YMCA が社会課題に取り組む活動を効果的に発信する広報のあり方を研究し体制と整え実施する。

- ①それぞれのプログラムを YMCA が行う必要性、意義を説得力のある形で文章化する。
- ②ホームページ、チラシの表出方法、スケジュール、告知の対象を研究調査する。
- ③地域社会、行政に積極的な告知を図っていく。

2) 盛岡 YMCA が行う募金活動、ファンレイズのあり方を見直し、より賛同や理解、寄付を得ることができる組織となる。

- ①募金、維持会員増強タスクチームを設置する。
- ②募金の使途等を決定する募金委員会を設置する。
- ③※ポジティブネットこども募金を開始する。 ※経済的理由により、YMCA の行うプログラムに参加することが困難な家庭のこどもたちを対象とした募金

3) 盛岡 YMCA はローカルに置かれた YMCA として地域社会の課題の解決に重点を置き、YMCA 運動を推進していく。そのためのブランドコンセプトを軸に盛岡 YMCA の将来のグランドデザインを構築する。

- ①盛岡 YMCA 大会を開催し、盛岡 YMCA 総体としての方向性を確認する場を設ける。

4) 盛岡 YMCA の行っていくメンバーシップ・バイ・デザインの中で、ブランディングで、メンバーにブランドコンセプトを伝えていき、共感を得る。

- ①メンバーシップ・バイ・デザインタスクチームを設置し、具体的なアクションプランと手引きを作成する。

5) ブランドブックの活用を通して、職員、役員、ワイズメンズクラブ、ボランティアリーダー、会員、その家族、地域にブランドイメージの浸透を図る。

- ①正しい表出を行えるよう、チェック体制を整える。
- ②研修の機会を設ける
- ③ブックレットの有効な活用を探り、実行する。

5. アクションプラン（本部事務局）

1. YOUTH EMPOWERMENT (地域に生きるこどもたち、青少年のために)

- 1) ユース委員会の行うプログラム、リーダー育成への寄付を推進するため、YMCA ニュース、案内等に工夫をする。
- 2) 全国 YMCA、東日本 YMCA が開催する各種の行事、研修会に積極的にユースを参加させる。
(YMCA 大会、全国リーダー研修会、東日本スタッフ研修会、YMCA 山村塾等)

2. HEALTHY LIVING (地域の人々の健康な生活を育むために)

- 1) 食に対する学びを深める。YMCA ニュース、職員報を利用してその啓蒙を図る。

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

- 1) 地域の NPO、関係諸団体との交流、関係性を深める。

4. MANAGEMENT (盛岡 YMCA のマネジメントを強化し、確立する)

- 1) 他の YMCA と比較し、盛岡 YMCA の会則を検討する。
- 2) 会計管理の体制を整備し、タイムリーに対予算比較ができるようにする。
- 3) 諸規則、規定の整備を行う。
- 4) 各事業、プログラムにおいて PDCA サイクルを回していけるような、簡単なフォーマットを作成する。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としての YMCA 作り)

- 1) 盛岡 YMCA ニュースの内容を工夫する。(YMCA 理解のコーナーを設ける。全国や世界の YMCA の取り組みも紹介するようにする。
- 2) 盛岡 YMCA としてファンレイジングを推進する具体的な計画を作成する。
- 3) 全国の YMCA の取り組みの調査をしたり、北米 YMCA が作成したガイドブックを参考に盛岡 YMCA としての具体的な計画を策定する。
- 4) 盛岡 YMCA 大会を開催する。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

- 1) 他部門と協働して、盛岡 YMCA としてどのように発信していくか、具体的な計画を作成する。

6. アクションプラン（本町センター）

1. YOUTH EMPOWERMENT (地域に生きるこどもたち、青少年のために)

- 1) いじめのない社会を作るのは自分たちであると真剣に考え、「ピンクシャツデー」に取り組む。
- 2) チャリティーランに2チームの参加を目指す。
- 3) 国際協力募金に本町センターで参加する。
- 4) インターンシップの受け入れができないか調査する。

2. HEALTHY LIVING (地域の人々の健康な生活を育むために)

- 1) 子ども食堂（みんなの食堂）の調査を開始する。

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

- 1) 月1回のミーティングの中で「ポジティブネット」について深め合う機会を設ける。
- 2) 長期休みを利用し、いじめについて考える機会を設ける。
- 3) より深く町内に入り込み、地域の課題に積極的に取り組める体制を作る。
- 4) 児童館などとの協働の可能性を調査する。

4. MANAGEMENT (盛岡 YMCA のマネジメントを強化し、確立する)

- 1) YMCA の価値を伝え、維持会員を増強する。
- 2) インシデント分析を行う。
- 3) 事業方針・事業計画・アクションプランをしっかりと伝える。
- 4) より具体的な現場のアクションプランを作成してもらい、評価、分析していく。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としての YMCA 作り)

- 1) YMCA ニュースの他にプライムニュースを発行する。
- 2) YMCA の開催する活動に積極的に参加してもらえるよう、ポスターなどの掲示を工夫する。

-
- 3) 年間スケジュールで職員礼拝のスケジュールをインフォメーションし、出席率を上げる。
 - 4) 本町センター内でのチャリティーラン実行委員会を立ち上げる。
 - 5) 本町センター内でのピンクシャツデー委員会を立ち上げる。
 - 6) 本町センター内での国際協力委員会を立ち上げる。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

- 1) 効果的に広報を行うために本町センターの強みと弱みを分析する。
- 2) 子ども、家族、地域社会が何を欲しているか、何を求めているかを敏感に感じ取れるようにアクションを起こす。
- 3) YMCA の価値、方向性を伝えるチラシを作成し、配布する。

7. アクションプラン（前潟センター）

2. HEALTHY LIVING (地域の人々の健康な生活を育むために)

- 1) 食育についての理解を深める。
 - ① 前潟ファームの環境整備を行う。
 - ② 予定地全ての開墾を目指す。
 - ③ 「食」についての勉強会を開催する。

4. MANAGEMENT (盛岡 YMCA のマネジメントを強化し、確立する)

- 1) お泊まり会を9月に開催する。
 - ①子どもが主体となるプログラムを取り入れる。
- 2) 学童保育の行事の内容を充実させる。
 - ①長期休みのプログラムを考案し、実現させていく。
 - ②季節や節句の特別プログラムを行う。
- 3) 学童職員の質の向上を目指す。
 - ①職員、パート指導員全員参加のセンターミーティングを月に1回開催する。
 - ②職員、パート指導員全員が毎日の出来事を確実にシェアできる申し込み方法を確立する。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としてのYMCA作り)

- 1) 保護者との関係を構築する。
 - ①学童保育の時間外で職員と保護者との懇親会を開催し、情報交換などの場を設ける。
 - ②ファミリー参加型のプログラムを行う。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

- 1) 土淵小学校・大新小学校・近隣児童館センターとの関係強化を図る。
 - ① ぷらいむ便りの配布を月1回行い、情報交換を行う。
 - ② 学校行事（スキーボランティア等）へ積極的に参加する。
- 2) 地域への奉仕、貢献活動を行う。
 - ① 長期休み、午前授業時を利用して子どもたちと職員で地域の清掃活動を行う。
- 3) 世代間交流を図る。
 - ① 近隣サービスへの訪問を行う。
 - ② 近隣高校生による学童ボランティアを募る。

8. アクションプラン（向中野センター）

1. YOUTH EMPOWERMENT (地域に生きるこどもたち、青少年のために)

- 1) 日本のYMCAが開催する各種研修会への派遣、加盟YMCAの人事協力・交流を積極的に進める。
 - ①他YMCAにセンター長小川を1ヶ月間、研修に派遣する。

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

- 1) 近隣YMCAとの協力、事業協働を進める。日本YMCAが行う全国協働事業に協力する。また、盛岡YMCAの行う全ての事業、活動が地域社会の課題に向き合っていることを明確に打ち出す。
 - ①日本YMCA大会の実行委員にユーススタッフを送り出す。
 - ②もりおかワイズメンズクラブが行う屋台出店の活動を協力する。
- 2) 地域とのつながりを持てるプログラムを行う。
 - ①向中野センターを会場にバザーを開催する。

4. MANAGEMENT (盛岡YMCAのマネジメントを強化し、確立する)

- 1) 学童保育の評価反省を定期的に行う。
 - ①毎日の業務の引き継ぎを行う。
 - ②月に一度センタースタッフミーティング（パートスタッフを含む）を開催する。
- 2) 施設的环境を整える。
 - ①長期休暇終わりの施設内大掃除を行う。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としてのYMCA作り)

- 1) 盛岡YMCAのプログラム利用者に盛岡YMCAが目指すことを分かりやすく説明する機会を多く持つ。
 - ①盛岡YMCAニュース、学童ニュースを保護者、学校、町内会に配布する。
 - ②盛岡YMCAの開催するイベントに積極的に会員の参加を促す。

2) 盛岡 YMCA の行うそれぞれの事業や、センターに置いてブランディングとともにメンバーシップ・バイ・デザインを意識した働きかけを計画的かつ積極的に実践していく。

①チャリティーランを通して、担い手会員を募っていただける様に価値を伝え、理解を深めていく。

②ピンクシャツデーを通して、担い手会員を募っていただける様に価値を伝え、理解を深めていく。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

1) 学童保育対象小学校、近隣の高校、地域とのコミュニケーションを積極的にとり、YMCA 理解を得ながら協働の道を探る。

①向中野小学校と情報の交換を密に行う。

②向中野小学校校庭の石拾いを行う。

③向中野小学校の運動会の際、施設を地域の方に解放する。

④町内会長とお話しをする機会を積極的に設け、協働で行えること、スタッフが手伝えることを検討する。

2) 盛岡 YMCA が行なっている様々なプログラムの価値を伝える。

①保護者の方々と顔をあわせた際に、積極的に他のプログラムの価値を伝えていく。

②目に見える形でプログラムの案内や YMCA の思いを表出できる場を施設の内外に作る。

9. アクションプラン（盛南センター）

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

- 1) 放課後等児童ディサービスの可能性を探る。
 - ①放課後等児童ディサービスの調査、検討を行う。

4. MANAGEMENT (盛岡 YMCA のマネジメントを強化し、確立する)

- 1) センターミーティングを定期的に行う。
 - ①月に一度センター職員が集いミーティングを行う。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としての YMCA 作り)

- 1) 保護者とコミュニケーションを密に取り、関係をしっかり築いていく。
 - ①学童ニュースを定期的に発行する。
 - ②子どもの様子についてしっかりと報告を行う。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

- 1) 外に向けた発信を行う。
 - ①学童のニュース、YMCA ニュースを対象校に配布する。

10. アクションプラン（ウェルネス事業）

1. YOUTH EMPOWERMENT (地域に生きる子どもたち、青少年のために)

- 1) ユースボランティア一人ひとりが子ども・社会に及ぼしている成果を評価する。
- 2) ユース年代にとって YMCA のボランティア活動が社会的にキャリアとして認められるようアピールする。
- 3) 実技・指導実践研修を行う。

2. HEALTHY LIVING (地域の人々の健康な生活を育むために)

- 1) シルバー対象の水泳教室を調査する。
- 2) 各ウェルネス事業のマニュアルを作成する。
- 3) 盛岡でウォーターセーフティキャンペーンを実施できないか調査する。

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

- 1) 支援学校などの出前ウェルネスプログラムの可能性を調査する。
- 2) 「ポジティブネット」を体現した指導を行えるよう、研修を行う。
- 3) ピンクシャツデーにより積極的にウェルネス事業として取り組む。
- 4) ベスト・キッズのチームとしてチャリティーランに参加する。
- 5) 福島でのサッカー・体育教室の可能性を調査する。
- 6) 盛岡・滝沢地区以外でのウェルネス事業の可能性を探る。

4. MANAGEMENT (盛岡 YMCA のマネジメントを強化し、確立する)

- 1) ベスト・キッズ OB に維持会員の案内を配布する。
- 2) サッカー・水泳で学期ごとに指導案を作成し、評価・分析する。
- 3) 盛岡 YMCA 独自のサッカースクールワッペンテストを作成する。
- 4) ユースボランティアリーダーに研修による指導者資格認定制度を調査する。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としてのYMCA作り)

- 1) スタッフ・ユースボランティアの計画的に研修を行う。
- 2) ウエルネスニュースを発行する。
- 3) ベスト・キッズOBにチャリティーランに参加してもらえるよう案内をする。
- 4) 他のサッカーチーム、水泳教室にピンクシャツデーの告知をする。
- 5) 次の歴史を担う指導者を育成する。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

- 1) YMCAがウエルネス事業として子ども・地域社会に与えてきた成果を具体的に示す。
- 2) 現在の子ども・地域社会の課題をウエルネスの立場にたって発信していく。
- 3) 各募金について丁寧に説明をし、賛同を得る。
- 4) インターシップ受入れの可能性を調査する。

11. アクションプラン（チャイルドケア事業）

1. YOUTH EMPOWERMENT（地域に生きるこどもたち、青少年のために）

- 1) 放課後児童支援員の資格認定研修に各センターからスタッフを派遣し資格を取得する。
 - ①各センターまだ資格を取得していないスタッフを研修に派遣する。

2. HEALTHY LIVING（地域の人々の健康な生活を育むために）

- 1) ウェルネスの視点にたった健康なライフスタイルを地域に展開していく。
 - ①食に対する学びを深める。

3. SOCIAL RESPONSIBILITY（人と人、人と地域がつながるために）

- 1) 滝沢中央小学校開校に伴い、放課後児童クラブ開設の準備を進める。（市から委託を受けた場合）
 - ①人員を確保する。
 - ②運営のシュミレーションを行う。
 - ③滝沢市と密に取り合う。
- 2) 盛岡市近郊での学童保育事業の可能性を探る。
 - ①人口の動向調査を行う。
 - ②待機児童の調査を行う。
- 3) 地域が抱える課題に対して調査を開始し、具体的なアクションを起こす。
 - ①放課後等児童デイサービスの調査・検討を行う。
 - ②学童保育登録メンバーを対象とした、生涯学習プログラムを開始する。

4. MANAGEMENT (盛岡 YMCA のマネジメントを強化し、確立する)

- 1) 各センターの学童で避難訓練を定期的に行う。
 - ①2018 年度中に各学童で 2 回開催する。
- 2) 各学童間での交流・評価反省の機会を設ける。
 - ①定期的にチャイルドケア事業部会を開催する。
 - ②各学童間の児童の交流を図る。
- 3) 学童から YMCA の他のプログラムへの参加者を増やす。
 - ①他事業部と連携し、無料体験実施など、他プログラムを体験してもらう機会を作る。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としての YMCA 作り)

- 1) 各センターの学童で、保護者との関係をしっかりと築いていく。
 - ①各センターの学童ニュースを定期的に発行して配布する。
 - ②お迎えの際、保護者とのコミュニケーション、報告（ケガや子どもの様子等）細かく行う。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

- 1) 外に向けた発信を行なっていく。
 - ①学童ニュースを各地域の小学校、町内会などに配布する。

12. アクションプラン（野外活動事業）

1. YOUTH EMPOWERMENT (地域に生きるこどもたち、青少年のために)

- 1) 保護者の方に YMCA の活動に参加することは次の世代を育成していることにもつながっていることを理解・意識してもらえるようなアクションを具体的に起こす。
- 2) 自分たちユースボランティアリーダーの活動・成果を自分たちで地域・社会に発信する。
- 3) 計画的・定期的に研修を行う。
- 4) 全国で開催するリーダー研修会やフォーラムにユースボランティアリーダーをできる限り派遣する。
- 5) 高校生ジュニアボランティアリーダーの育成準備を具体的にしていく。
- 6) YMCA 以外のボランティア活動にもユースリーダーを派遣する。
- 7) 次の世代を担う指導者を育成し、スタッフとして採用する。
- 8) 全国の研修会にできる限りスタッフを派遣する。

2. HEALTHY LIVING (地域の人々の健康な生活を育むために)

- 1) 野外活動クラブを4つのクラス編成にし、実施する。
- 2) 学校のスキー教室にユースボランティアリーダー・スタッフを指導者として派遣する。
- 3) ファミリー野外（オリオンクラス）として食育をテーマに畑のプログラムを実施する。

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

- 1) グループワークについて学びを深める。
- 2) 全てのプログラムにグループワークを取り入れ、民主主義な「ポジティブネット」を体現する。
- 3) 発達障がい児対象の野外活動を調査する。
- 4) 病児レクリエーション・野外活動・キャンプを調査する。
- 5) 福島を対象としたキャンプを調査する。
- 6) 他 YMCA と協働したキャンプを調査する。
- 7) 長期キャンプを具体的に調査する。
- 8) 海外キャンプを調査する。

4. MANAGEMENT (盛岡 YMCA のマネジメントを強化し、確立する)

- 1) キャンプに参加する際に維持会員になってもらうシステムを調査する。
- 2) パーソナルカードを作成し、子どもの1年の成長、成果を評価、分析する。
- 3) 活動の評価、報告会を実施する。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としてのYMCA作り)

- 1) 野外活動（アドベンチャーニュース）を発行する。
- 2) チャイルドケア事業と連携し、YMCAの野外活動について知ってもらう。
- 3) メンバーからリーダーへつながるようにグループ構成などを工夫し、育成していく。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

- 1) これまでの野外活動事業の成果を具体的に示す。
- 2) 岩手・盛岡の地で野外活動の必要性を示す。
- 3) 助成金の調査を継続的に行う。
- 4) 参加するユースボランティアリーダーにYMCAの価値をしっかりと伝える。

12. アクションプラン（生涯学習事業）

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

- 1) 学童参加者を対象とした英語教室、習字教室、ホームスクールを始める。
 - ①講師を確保する。
 - ②カリキュラムについて外部からアドバイスを受ける。

4. MANAGEMENT (盛岡 YMCA のマネジメントを強化し、確立する)

- 1) カリキュラム内容について担当講師と精査を適宜行う。
 - ①子どもの実態に即した内容となるよう講師からヒアリング等を行う。
 - ②将来を見据え教材等の積み重ねを行う。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としての YMCA 作り)

- 1) 講師に YMCA の活動を理解していただき賛同を得る。
 - ①YMCA 理解を進められるようコミュニケーションをしっかりと取る。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

- 1) 将来を見据え効果的な発信について研究を進める
 - ①競合他社の分析研究を行う。

13. アクションプラン（東日本大震災被災地復興支援事業）

1. YOUTH EMPOWERMENT (地域に生きるこどもたち、青少年のために)

- 1) 宮古サッカースクールを継続する。
- 2) 宮古アドベンチャーを継続する。
- 3) ユースを対象とした「ふくしま」についての学びの場を設ける。

2. HEALTHY LIVING (地域の人々の健康な生活を育むために)

- 1) 宮古アドベンチャーの野外料理の中で、食に対する学びを検討する。

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

- 1) 地域の NPO、関係諸団体との交流、関係性を深める。

4. MANAGEMENT (盛岡 YMCA のマネジメントを強化し、確立する)

- 1) PDCA サイクルを回していけるような、簡単なフォーマットを作成し、運営する。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としての YMCA 作り)

- 1) サッカー、野外活動参加者への YMCA ニュースの配布、発送を徹底する。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

- 1) ホームページ、フェイスブック等の更新を定期的に行うようにする。

14. アクションプラン(第2回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン実行委員会)

1. YOUTH EMPOWERMENT (地域に生きるこどもたち、青少年のために)

- 1) ユースボランティアリーダーを実行委員のメンバーに入れる。
- 2) チャリティーランに高校生チームが参加してもらえるようにアクションして行く。

2. HEALTHY LIVING (地域の人々の健康な生活を育むために)

- 1) 食品関係の企業に協賛してもらえるようにアクションする。

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

- 1) 様々な分野の方々を実行委員会のメンバーに取り込んでいく。
- 2) 様々な団体と協働しチャリティーランを作っていく。
- 3) 益金を使って他団体と協働し、新しいプログラムを開発する。

4. MANAGEMENT (盛岡YMCAのマネジメントを強化し、確立する)

- 1) 参加人数、益金だけでなく、どれだけ社会に発信できたか、共に生きる社会に近づけたかで評価する。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としてのYMCA作り)

- 1) 実行委員会のメンバーをワイズメンズクラブの例会に招待する。(ゲストスピーカーなど)
- 2) チャリティーランを通してYMCAは地域・社会の課題に立ち向かっていく団体だと認知してもらう。

15. アクションプラン (ユース委員会)

1. YOUTH EMPOWERMENT (地域に生きるこどもたち、青少年のために)

- 1) 総合的なユース育成のビジョンを確立し、岩手におけるユースエンパワーメントの第一人者を目指す。
 - ①盛岡市並びに岩手県における青少年育成の取り組みを精査する。
- 2) グローバルネットワークを生かし、ユース世代に共に生きる原体験となる機会をさらに提供する。ユースが自ら社会の課題を見つめ、自己と社会の変革のためにアクションに参加できる道筋を整える。
 - ①9月に山中湖で開催されるユースボランティアリーダーズフォーラムに2名の参加を目指す。
 - ②10月に宮城県で開催される全国リーダー研修会に10名の参加を目指す。
 - ③11月に東山荘で開催される日本YMCA大会に5名の参加を目指す。
 - ④高校生ジュニアボランティアリーダーの育成を検討する
 - ⑤中高生キャンプ等、中高生またはそれを取り巻く人を対象に具体的なプログラムを企画し行う。

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

- 1) 主として青少年が抱える課題について調査を開始し、具体的なアクションを起こす。
 - ①ピンクシャツデー等の活動を通じて、いじめの問題に取り組む。
 - ②貧困による影響を受ける子どもたちの課題に取り組む。

16. アクションプラン（国際協力）

1. YOUTH EMPOWERMENT (地域に生きるこどもたち、青少年のために)

- 1) グローバルネットワークを生かし、ユース世代に共に生きる原体験となる機会をさらに提供する。ユースが自ら社会の課題を見つめ、自己と社会の変革のためにアクションに参加できる道筋を整える。
 - ①日本のYMCAが行うワークキャンプへのリーダー、スタッフの積極的な参加を検討する。
 - ②海外との交流を目指し、他国のYMCAとの
 - ③盛岡YMCA主催のワークキャンプの調査を行う。

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

- 1) YMCAの持つ、世界的なネットワークを盛岡において有効に発信する。
 - ①国際協力募金を発展させる。
 - ②岩手における国際関係の団体とのネットワークの強化を図る。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

- 1) 会員、メンバーに国際協力活動をより深く理解してもらえる環境をつくり、協力を求める。
 - ①11月からの国際協力募金活動を積極的に行う。
 - ②YMCAの国際協力活動の発信を会員、メンバーに積極的に行う。

17. アクションプラン（リーダー会）

1. YOUTH EMPOWERMENT (地域に生きるこどもたち、青少年のために)

- 1) リーダー会のあり方を確定させ、ボラティアリーダーの増大を目指す。
 - ①月1回のリーダー会で現リーダー登録者半数以上の出席を目指す。
 - ②岩手を代表する学生団体を目指す。
- 2) 活動の体験をたくさんの人と共有し、自己を高める。
 - ①ユースボランティアのための研修会等への参加をする。
 - ②全国のYMCAユースボランティアリーダーとの交流をし、つながりを深くすることを目指す。
- 3) リーダートレーニングを実施し、自己の成長を促し活動に活かす。
 - ①週1回のペースで、ウエルネス活動を軸とした取り組みを行う。
- 4) サンデースクールについて
 - ①サンデースクールに参加するリーダーを増やす。
 - ②リーダー会全体としてサンデースクールについて考える。
 - ③社会との関係を持てるようなプログラムを増やす。

2. HEALTHY LIVING (地域の人々の健康な生活を育むために)

- 1) リーダートレーニングを通して、ウエルネスの学びを深める。
 - ①対象を理解し関わっていく。

3. SOCIAL RESPONSIBILITY (人と人、人と地域がつながるために)

- 1) 青少年が抱える課題について理解をしてアクションを起こす。
 - ①いじめの問題について取り組みをする。
 - ②青少年の居場所について考え理解を深める。
- 2) 東日本大震災被災地復興支援を継続して行う。
 - ①被災地の子どもたちの様子を知る。
 - ②宮古の活動に積極的に参加する。
- 3) サンデースクールについて
 - ①子どもたちが他のYMCAのプログラムに参加するきっかけとなるようにする。
 - ②個人での活動だけでなく、グループや全体を意識できるような活動も増やす。

4. MANAGEMENT (盛岡 YMCA のマネジメントを強化し、確立する)

- 1) リーダー会を組織として確立させるため、会計等必要な情報を提供できる体制を整える。
 - ①リーダー会のふりかえりをする機会を設ける。
 - ②育成費やリーダー会費、その他イベント等での財務状況を作成する。
 - ③リーダー会としてサンデースクールを企画運営し、利益をリーダー育成のために活用する。
- 2) 盛岡 YMCA のボランティアリーダー全体でサンデースクールに取り組む。
 - ①リーダーとそれぞれが主体性をもって取り組む。
 - ②ディレクターとその他のリーダーで連携し、サンデースクールについて考えていく。
- 3) 会計と連携し、サンデースクールを運営する。
 - ①リーダー育成費の予算に基づき、サンデースクール目標参加者人数などを見積もる。
 - ②上半期にアクションプランの中間報告をリーダー会で行う。
 - ③サンデースクールの活動や質や内容をより充実したものにするために、PDCA サイクルを導入しそれに基づきふりかえる。

5. MEMBERSHIP BY DESIGN (会員運動体としての YMCA 作り)

- 1) 盛岡 YMCA の活動に積極的に関わる。
 - ①リーダーから盛岡 YMCA の良さを発信し、広める。
- 2) リーダー会で行うこと、活動の質並びに内容をより充実したものにし、より効果的なものにする。
 - ①PDCA サイクルを活動に導入する。
- 3) サンデースクール参加者にサンデースクールが目指すことを分かりやすく説明する機会を多く持つ。
 - ①サンデースクールのチラシの内容の充実と確実な配布を目指す。

6. BRANDING (ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る)

- 1) リーダー会の様子を SNS を通し発信する。
 - ①盛岡 YMCA のフェイスブックに情報を載せる。
 - ②高校生とのつながりを持ち、ユース・ジュニアでの活動を推進する。
- 2) サンデースクールを効果的に発信する広報のあり方を研究し体制を整え実施する。
 - ①ホームページ、フェイスブック、チラシ等の表出方法、スケジュール、告知の対象を研究・調査する。

8. 日本 YMCA 中期計画 2020 (2017-2020 年度)

1. 基本方針

日本の YMCA は、以下のことを進めていきます。

1. ブランディングを推進し、ミッションを明確にする

社会との約束であるブランドコンセプトに基づいて、YMCA の全事業の見直しを進め、その価値を高める。YMCA の姿が明確に伝わることで、社会から共感と信頼を得る

YMCA のキリスト教使命（ミッション）を明確にする。

2. 全国的な広報戦略を策定する

広報戦略を立案し、恒常的かつ機動的にスケールメリットを生かして、社会に発信ができる体制と体質を作る。

社会に貢献する働きを明確にすることによって、賛同や寄附を得る組織風土を確立する。

3. リーダーシップ研修の充実を図り、強化する

次世代の日本 YMCA 運動のリーダーシップ像を、スタッフ、ボランティア、ユースリーダーにおいて明らかにする。全国で行うすべての研修を捉え直し、カリキュラムを整え体系化する。

4. YMCA マネジメントを強化し、確立する

すべての YMCA の発展に資するよう、マネジメントの強化を徹底して図り、システムの確立を目指す。全国的な視野で事業強化を推進して財政基盤を強固にすると共に、コンプライアンスを遵守する組織となる。

5. 日本 YMCA 運動を組織改革する

日本 YMCA 運動としての一致と協力、将来にわたる推進のため、組織構造を変革する。

日本 YMCA 同盟は中期計画推進機能をより「見える化」し、新たにブランドマネジメント機能を確立する。

6. “ポジティブネット”の実現の姿を示し、ユースエンパワーメントを推進する

“ポジティブネットのある豊かな社会”を創造することを決意し、働きを通して社会に示し続けていく。グローバルな基盤を活かしてユースが自ら考え行動するネットワークを広げ、ユースエンパワーメントを推進する。

II. 具体的な展開策

1. ブランディングを推進し、ミッションを明確にする

1. 2017年10月より順次、ブランドガイドラインに則って統一したブランドイメージを発信する。
2. ブランドコンセプトに基づいて、全事業・活動の検証を行い、その価値を磨き高める。
3. ブランドブックの活用を通して、内外にブランドイメージの浸透を図る。
4. ブランドの基盤となるミッションの再確認と徹底を図る。

2. 全国的な広報戦略を策定する

1. 効果的な広報のありかたを研究し、発信できる体制と体質を作る。
2. 募金/ファンドレイズを実践し、賛同や寄附を得る組織となる。

3. リーダーシップ研修の充実を図り、強化する

1. 就労環境（働く環境）の改善に努め、多様なスタッフの採用・確保を進める。
2. 社会の課題に応えるスタッフを養成するために、研修を行う。
3. 各種研修への派遣、加盟YMCA間の人事協力・交流を積極的に進める。

4. YMCA マネジメントを強化し、確立する

1. 新たにマネジメントの項目を追加した「YMCA ガバナンス・マネジメントチェックリスト」を用いて、セルフチェックを実施する。
2. 戦略会議、各事業担当者会と連動して、財政基盤となる事業を強化する。

5. 日本YMCA運動を組織改革する

1. ブランドコンセプトを軸に将来のグランドデザインを構築する。
2. 近隣YMCAと協力、事業の全国協働を進める、また、地域における学生YMCA、ワイズメンズクラブとの協働を図る。

6. “ポジティブネット”実現の姿を示し、ユースエンパワーメントを推進する

1. 全事業をブランド体系化し、価値のありようを内外に提示し、浸透を図る。ポジティブネットの実現の姿（具体的なイメージ）を、働きを通して社会に示し続けていく。また新たにフラッグシップ（パイオニア）となる事業/活動を開発し、展開する。
2. 多様な背景をもつユースが中心となって、YMCAの価値を具現化し、共有する。
3. グローバルネットワークを生かし、ユース世代に共に生きる原体験となる機会をさらに提供する。ユース自ら社会の課題をみつめ、自己と社会の変革のためのアクションに参画できる道筋を整える。
4. 総合的なユース育成のビジョンを世界、日本、地域（都市YMCA・学生YMCA）で確立し、ユースエンパワーメントの第一人者となる。
5. 日本YMCA同盟が中心となり、全国各地区でのエリアセーフティーの仕組みを整え、国内外の災害対策支援機能も他団体と連携し強化を図る。



- 盛岡 YMCA 本部事務局
〒020-0015 盛岡市本町通 3-1-1 ST マンション 201 TEL 019-623-1575
- YMCA 本町センター
〒020-0015 盛岡市本町通 3-1-1 ST マンション 1F TEL 019-623-1575
- YMCA 前潟センター
〒020-0148 盛岡市前潟 1-5-31 TEL 019-641-5822
- YMCA 向中野センター
〒020-0851 盛岡市向中野 2-39-6 TEL 019-601-6099
- YMCA 盛南センター
〒020-0866 盛岡市本宮 2-3-25 TEL 019-681-0773